



統計茨城 12月号 目次

1 統計論壇.....	1	7 電力.....	15
2 農家経済の動向.....	2	8 運輸.....	15
3 統計分析シリーズⅣ.....	4	9 家計.....	16
4 指標		10 物価.....	19
1 主要経済指標.....	6	11 交通事故.....	19
2 人口.....	8	12 火災.....	18
3 労働.....	10	5 統計課アルカルト.....	20
4 農業.....	12	6 統計ニュース	
5 鉱工業.....	13	12月の主な行事.....	21
6 金融.....	14		

利用上の注意

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1 統計表の数値は原則として単位未満は四捨五入 | 2 年度は4月から翌年の3月まで |
| 3 記号 | |
| — 零または該当数字のないもの | r 訂正数字 |
| 0 該当数字が掲載単位未満のもの | △ 減少または出超 |
| … 不詳のもの | x 秘密保持のため掲載をひかえたもの |
| p 暫定数字 | |

大内賞を受賞して

元茨城県統計課課長浦佐 大録 義行

10月17日「あすは統計の日」の記事が出ているのを、家内が見つけた。本県においても「統計記念日」を設けようとの声が戦前にもあったと聞いている。統計の日を制定しようとの提案が、たしか大内兵衛先生が統計委員会（現行管統計主幹の前身）委員長をしていらつしやった頃の都道府県主管課長会議でも論議されたように記憶している。昨年の福島大会において、全国統計マンの総意として決議された。この熱意は、政府を動かし、統計の日の制定となった。過去のいきさつを知っている者の1人として、感無量なものがある。統計のよりよい発展のためにも、大切にしたいものだ。国民の間に統計に対する関心と協力のなご一層の高まりを期待したいのは、私ばかりでなく関係者の強い念願ではないだろうか。

戦後のわが国の統計の再建は、大内兵衛先生の業績である。先生が、吉田首相から懇請を受け、統計の再建に着手されたのは、戦後国土荒廃の最中の昭和22年であった。先生の寝食を忘れた統計再建の情熱は、我が国を遂に世界の統計にまで引き上げてくださった。先生が、日本統計の基礎を確立されて、ご退任なさったのは昭和27年であった。先生のご退任にあたって、全国の統計関係者から記念品代がよせられた。先生は、それを統計界発展のためにとご寄附くださったので、これを基金として先生の偉大な業績を永久に記念するための、大内賞が創設され、昭和28年から、わが国の統計の進歩発展に直接貢献した人たちに贈られてきたのである。私の在職中、受賞された方々は、理論に、実践に、立派な功績を残された人達ばかりであったことは、当時の「統計通信」も報じている。これら先輩たちの情熱と努力が、日本統計界のとどまることのない発展の原動力をなしている。若い時代であった私には、大内賞は羨望的であり、手の届かない彼方にあるものに思われた。

それが、いま自分が表彰を受けたということは、本当に予期し得ないでき事であった。8月のある日、大内賞授賞者に決定したと、県統計課から電話があった。しかし、そのような事がある筈はない、私のようなものにと、信じられないことであった。ついで8月19日朝刊の中央紙、地方紙は、大内賞受賞者決定を報じていた。白昼夢ではない、現実なのだ。生まれて60年、今まで味つたことのない大きな感動となって、うれしさが胸いっぱいこみあげてくるのを覚えた。

これは、私に授賞されたのではなく、在職中県単統計調査を企画、実施したのは幾つあつたか忘れたが、これにご協力下さった調査員の方々、市町村の統計関係者、県の同僚の方にこそ、あたえられるべきものではなかろうか。それがその代表として、私にあたえられたものと思っている。また、それだけ本県の統計が全国的にも高い水準にあることの証左でもある。

それはそれとして、戦後、私が企画設計した調査中、現在充実整備され実施されているものに、農業基本調査、県民所得推計、法人企業統計調査があり、また農業生産指数、鉱工業生産指数および、消費者物価指数の作成などがある。また、思い出に残る調査としては、小貝川決潰による北相馬郡数町村の損害額推定のための一夜調査、農産物の冷害に調査員2万人を動員した調査などが記憶に残っている。前者は、多分本県において本格的な標本理論に基づく最初の調査ではなかったかと思う。企画設計、調査、集計を午後1時から翌朝6時まで行ない、知事の中央陣情の資料とした。有意差検定も、準備調査もなしの調査であった。咀嚼しきれないままの知識でも役に立った。

種々の調査が行なわれているが、それを総合分析するという事は、いうは易く行なうは難しの諺どおり、それらを統計書として保存することは、難しいことである。過去において日露戦争後の県政の推移、戦前の水害誌など僅に現在残されているに過ぎない。幾十百の調査が過去において行なわれたが、これを今発掘することは困難なことである。これら貴重な資料を、できるだけ数多く後世に残すこともまた、統計マンに課せられた任務の一つではないだろうか。古きを顧み将来を推し測る、人の世の転移は何時も同じである。この意味で、過去の資料を発掘し、日の目をあてようと努力を重ねてみたが、微力で十分の事ができなかった。「統計からみた茨城の姿」も「経済と産業編」と「人口編」の二巻しかまとめられなかった。有能な統計課の皆様のご精進で、これからも大きな意味での「県民の生活と福祉」をまとめられることを期待したい。本当の大内賞受賞者の出現を待ち望んでいる。

(大内賞受賞の前夜、白浜にて)

＝農家経済の動向＝

農林省関東農政局茨城統計情報事務所

田 山 丑 三 郎

46年以降の金融緩和措置のため、企業や銀行の金融界における過剰流動性が問題となり、この過程で土地や木材、綿花、羊毛、小麦、大豆などへの過剰投資、国際的農産物の不作などが重なって異常な高騰をもたらした最近ではインフレ傾向にあるが、47年度の農家経済はどうか。農林省が実施している農家経済調査の結果から、本県の農家の経済の動向をみるとつぎのとおりである。

農家経済の概況

昭和44年度までの農業依存度（農家所得に占める農業所得の割合）は50%以上であったが、米の生産調整が具体化された45年度以降は依存度は低下し、45年度は47.4%、46年度は38.8%と農業所得と農外所得の構成に変化がみられ、農業所得の伸び悩みがあった。

46年度の農家1戸当たり農業所得は58万円と前年度より8.7%の減少となった。これに対し農外所得は増大し、92万円と45年度より30%の増加を示し、これらに支えられ、農家総所得（農業所得、農外所得、被贈扶助等収入の合計）は178万円と45年度より17%の増加となった。

47年度の農家総所得は、農業生産が前年度を大幅に上回り、農業所得が増大したこと、農外所得がさらに増大したことにより205万円と前年度より15%増加した。

47年度の特徴は、農業所得が前年度を20%以上、上回ったことである。

農家の1戸当たり農業所得は、農産物価格の停滞した43年以降はその増加率が鈍化した。44年度は前年度より4.5%の減少を示し、45年度は5.6%の増加にとどまり、46年度は再び8.7%の減少となった。

そして47年度は71万円と前年度より21%増加した。

（しかし、47年度は農業所得の復調が目立ったが、43年度に比べて10%の増加にすぎない。）

この農業所得の大幅（21%）の伸びは、農業生産の増大と、低迷をつづけてきた農産物価格が騰勢に転じたことにより、農業粗収益が119万円となり前年度より17%

と大幅に伸び、他方、農業経営費は13%の増加にとどまった結果である。

農業粗収益の主要作目についてみると、47年度の米価は政府買入価格が前年より5.6%引上げられ、また自主流通米、自由販売米も3~4%の値上がり、加えて、水稻の作柄が良かった（作況指数104）などにより、稲作収入が1戸当たり41万円と前年度より12%増大した。

野菜は、はくさい、ねぎ、きゃべつなどの葉茎菜類は秋期の安値が影響して大幅に下落したが、施設ものの比重が高まって、きゅうり、なす、とまと、すいか、メロンなどは15~30%の値上がりもみられたので、野菜全体の価格は前年度並に推移した。また野菜は全般的に気象条件に恵まれたこともあって（一部の野菜を除き）作柄は良好で生産の増加もあり、1戸当たり26万円と前年度より8%増加した。

また畜産収入のうち、ウェイトの高い養豚部門は、肉豚販売価格が4%値上がりしたこと、規模拡大による生産の増加及び子豚の不足による値上がりなどが重なって、養豚収入は1戸当たり34万円となり前年度より23%と大幅に増大した。

これらのほか、農業粗収益のウェイトは低いですが、まゆ、こんにゃく、いも、葉たばこなどの農産物価格も騰勢に転じたので、それぞれ、前年度を上回った。したがって、農業粗収益全体としては、各農産物生産の増と、価格の上昇によって1戸当たり139万円と前年度より17%上回る結果となった。

一方、農業経営費についてみると、前年度の増加率（9.5%）をさらに上回る13%増となった。

このうち肥料費は近年停滞ぎみであったが、47年度は複合肥料の5%内外の値上がり、施設野菜の普及による使用量の増加もあって、1戸当たり6万円と前年度より8%増加した。

また飼料費は、飼養豚数の増加と飼育期間の延長による増加に加え、47年の4月~11月までの配合飼料は前年同期より6~7%値下がりしていたが、12月以降原料価格の高騰によって、農家購入価格も大幅に上昇したため、

1戸当たり飼料費は20万円と前年度より18%増加した。

さらに農機具は、田植機、バインダー、自脱型コンバインなどの導入が普及したこともあって、1戸当たり9万円と前年度より8%増加した。

また農業費についてみると、比較的単価の高い低毒性の農薬が出回ったこと、殺菌剤、除草剤の値上がり、及び野菜作付の増加などがあって1戸当たり24万円と前年度より26%増加した。

賃借料、料金なども農作業の請負い、質耕、農産物の販売のための運搬料、手数料など増加し、賃借料、料金は4万円となり前年度より25%増加している。

これらが農業経営費の増加に大きく影響しているが、農業経営費全体としては、農業粗収益の増加率より下回った（47年度の特徴である。）ので、農業所得は71万円となり、前年度より21%増大し、農業所得率（農業粗収益を農業経営費で除した割合）は、前年度の49%から51%に上昇している。

つぎに農家所得の60%を占めている農外所得についてみると、依然として増勢をつづけ1戸当たり111万円と前年度をさらに21%上回った。

農外収入のうち、農業以外の事業（林業、水産業、商業等）の売上げが伸びた農家もあることから、これらの事業収入は1戸当たり20万円と前年度より60%増加した。

また、農外収入の大部分を占める労賃、俸給収入を雇用先における賃金の上昇と就労者の増加によって、1戸当たり92万円と前年度より15%増加している。

他方、農業以外の事業支出も事業の拡大によって、1戸当たり10万円と前年度より55%増加している。

つぎに農家の家計費をみると、ひきつづき増加傾向にあり、1戸当たり146万円（農家世帯員1人当たり29万7千円）と前年度より11%（1人当たりは13%）増となった。

家計費のうち、飲食費は魚介、肉卵乳、外食などの値上がりを反映して1戸当たり40万4千円と6%増加し、被服費は綿類、絹織物、毛織物などの衣料品がいずれも7%以上の値上がりがあったにもかかわらず、5%増にとどまった。しかし、家財家具類は、カラーテレビ、応接セット、流し台などの耐久消費財の購入がおう盛で、1戸当たり10万4千円と前年度より20%増加した。

保健衛生費は、サービスの技術料の値上がりをも反映して、診療料27%、理髪代10%、パーマ代16%の増加が目立ち、1戸当たり5万9千円と18%増加した。

また教養娯楽費も旅行費、講習会費および観覧料など

レジャー的費用の増加がみられ1戸当たり7万5千円と前年度より20%増加している。

自動車費も通勤用、レジャー用としてガソリン代、修理代が増え、1戸当たり11万1千円と19%増加した。

このように各費用の著しい伸びを示した背景には、まず消費物資の全般的値上がりと農外収入の大幅な増大に負うところが大きい、そのほかに、宅地、ゴルフ場用地などの土地需要がおう盛で、農家の土地売却収入の増加もあり、これらが家計費の増大に影響していると思われる。農家の土地売却収入をみると45年度は1戸平均1万1千円であったが、46年度は5万7千円、そして47年度は土地の異常な高騰もあって、33万4千円と前年度の6倍の土地売却収入であった。

つぎに平均消費性向（可処分所得より家計に消費する割合）は44年度は82.9%、45年度82.0%、46年度79.9%そして47年度は78.5%と低下している。

したがって可処分所得から家計費を差し引いた農家経済余剰は、堅実に増加している。

すなわち、農家総所得の伸び率より、家計費の増加率が下回っているため、経済余剰が増加している。47年度の農家経済余剰は1戸当たり40万1千円で前年度より22%増加した。

これらの余剰金に土地売却収入を合わせた、農家資金は固定資産の投資も活発となった。43年度以降固定資産の投資は停滞傾向であったが、46年度は前年度より14%増加し、47年度は著増し1戸当たり46万6千円と前年度より73%増加した。土地売却農家が土地を買替えたこともあって、土地購入は1戸当たり3万8千円と前年度の倍、また建築物の新築は建材の値上がりをみながらもおう盛で、1戸当たり28万1千円と前年度の2倍となった。また自動車への投資も1戸当たり8万1千円と14%増加した。さらに大農具の購入も意欲的で施設用の温風式暖房機、動力田植機、動力刈取結束機、コンバイン、動力脱穀機などの作業機への投資が目立っている。

農家総所得の増大、経済余剰の増加、土地売却収入の著増などで、固定資産への投資も活発化しているが、農家の貯蓄高も増加し、47年4月1日の年度始めの貯蓄高（売掛未収入金を含む。）より32%増加して1戸当たり270万円となり、農家所得の1.5倍の保有高となった。

一方、農家の負債額（買掛未払金を含む）も年度始めより53%増えて年度末は40万円となったが、負債の割合は全国平均の20%より低く15%となっている。以上が本県農家の経済概況であり順調に推移した年であると思う。

統計分析シリーズ (VI)

茨城大学教授 所 一 夫

VI カイ2乗検定 (1)

1. 適合度検定

あるメーカーがオープンシャツを製造するのにサイズ M, L, LL の需要割合は40%, 40%, 20%と見込んだ。この見込みが適当であったか否かを調査するのにある日 K デパートでの売上げを調査して見たら、売れたシャツ 80 枚のうち M が 35 枚, L が 40 枚, LL が 5 枚であった。この調査の結果からメーカーの見込み 40 : 40 : 20 はまちがっていたと見られるか否かを考えて見よう。

この問題は顧客全体を母集団とし、その日の K デパートでの客をランダムサンプルとみなしたときに、このサンプルから母集団における比率 40 : 40 : 20 が正しいか否かを検定して見ようとするものである。

この場合帰無仮説として M : L : LL = 40 : 40 : 20 を採用する。次に、もしこの仮説が正しいならシャツ計 80 枚について各サイズおのおの何枚ずつと考えるべきかという枚数 (これを理論度数, または期待度数という。) を計算して見る。これは

$$M \text{ は } 80 \times 0.4 = 32, L \text{ は } 80 \times 0.4 = 32,$$

$$LL \text{ は } 80 \times 0.2 = 16$$

のように計算される。すなわちメーカーの見込みが正しいなら 80 枚については、M は 32 枚, L は 32 枚, LL は 16 枚と期待されるべきはすものであるとの意味である。ところが実際には M は 35 枚, L は 40 枚, LL は 5 枚であった。これらの結果を次のように表示して見る。ここで理論度数は () 内に示しておく。

	M	L	LL	計
標本度数	35(32)	40(32)	5(16)	80

もちろん実際調べた標本度数が理論度数と一致するとは考えられないが、これらの間のくいちがいは、たいしたものではないのか、それともひどいものと見なければならぬものか、そのような事が研究の対象となる。そのためにこの検定を適合度検定と言っている。

2. カイ2乗統計量

そうすると次の問題は理論度数と標本度数のくいちがいの程度をどのように数値で表わすかが問題であるが、これに対して上表の各欄について

$$\chi^2 = \frac{(\text{標本度数} - \text{理論度数})^2}{\text{理論度数}} \text{ の和}$$

を作り、これをくいちがいの測度としてカイ2乗と言っている。前問の場合について χ^2 の値を求めてみると (実際に標本から求めた値を χ_0^2 と書く。) 次のようになる。

$$\chi_0^2 = \frac{(35-32)^2}{32} + \frac{(40-32)^2}{32} + \frac{(5-16)^2}{16} = 9.84$$

このようにしてくいちがいの程度を表わす χ^2 の値は求められたが、その値が大きい値であるか小さい値であるかは比較するものがなければ判断できない。しかもその比較に対しては上表の欄の個数も関係してくる。欄の個数が少なればくいちがいは大きくと χ_0^2 の値は小さくならうし、欄の個数が多ればくいちがいが小さくともそれらの和として χ_0^2 は大きくなろう。

そこで上の χ^2 について、標本値の合計が与えられた場合に各欄の数値の中で自由に採り得る欄の個数 n を調べよう。上例の場合は M, L, LL と 3 個の欄があるが合計 (80) が決められているからそれらの標本値の中で自由に採り得る個数は $3-1=2$ となる。この個数 (標本値 3 個の中から制限事項 1 (和が決定) を減じた。) 2 をこの χ^2 についての自由度と言っている。すなわち上例では χ^2 の標本値 χ_0^2 は 9.84 で、その自由度 n は 2 の場合である。

3. カイ2乗分布

与えられた帰無仮説のもとでは、標本値が理論度数からあまり大きくへだたる事は稀であろうから、標本から得られた自由度 n の χ^2 の値 χ_0^2 は大きい数になることは稀であろうと思われる。しかし χ^2 の値としてどの程度の大きい数がどの程度に起こってくるのが問題である。

これに関しては、各欄内の数値が相当大きい場合には (5 以上) 上に算出した χ^2 の値は、標本によって種々異なった値を採るのであろうが、それらは自由度 n の χ^2 分布と呼ばれる分布に近い事が示されている。そしてこの

カイ 2 乗分布については与えられた自由度に関して χ^2 の値がある値Cより大となる確率が5%とか1%とかになるようなCの値が表によって示されている。この表を χ^2 分布の表という。これらのCの値を $\chi_n(0.05)$ とか $\chi_n(0.01)$ のように示す。次にこの表の一部(5%の場合を示す。

確率0.05の場合の χ^2 分布の表

自由度 n	$\chi_n^2(0.05)$	n	$\chi_n^2(0.05)$	n	$\chi_n^2(0.05)$
1	3.842	8	15.51	15	25.00
2	5.992	9	16.92	16	26.30
3	7.815	10	18.31	17	27.59
4	9.488	11	19.68	18	29.87
5	11.07	12	21.03	19	30.14
6	12.59	13	22.36	20	31.41
7	14.07	14	23.69	30	43.77

この表によれば自由度 $n = 5$ の χ^2 分布では上述の χ^2 が11.07以上の値を採る確率は5%であり、自由度が10ならば18.3以上の値を採る確率が5%なのである。

またシャツの調査については前に算出した χ^2 の値は標本の採り方によって(また他の日の売上げ80枚の結果から算出してみると)いろいろと異なった値となるであろうが、それらの値が自由度2の場合の表の値5.992よりも大きい値となる場合は約5%である事を示している。

4. カイ 2 乗検定

はじめの例にもどってでると、メーカーの見込みが正しいならば売れたシャツ80枚のうち3種のシャツの理論度数は32, 32, 16となるはずである。実際にはこれとくいちがっていた。その程度を χ^2 で示すと $\chi_0^2=9.84$ であった。この場合に χ^2 についてのより偏る範囲は $\chi^2 \geq \chi_0^2=9.84$ である。検定の方針に従ってより偏る範囲にはいる確率すなわち($\chi^2 \geq 9.84$)となる確率を調べるのであるが、 χ^2 分布の表から $n=2$ の場合には $\chi^2 \geq 5.992$ となる確率が5%となつている。上に調べた標本から求めた χ_0^2 の値は9.84でこれは表の値 $\chi_2^2(0.05)=5.992$ より大であるから($\chi^2 \geq \chi_0^2=9.84$)となる確率は5%より小さいと言える。これはもしメーカーの見込みが正しいものならば、標本から得られた数値がこの調査の場合以上に理論度数から隔たる事は、もし起こったとしてもそれは5%よりも少ない事を示したものである。

したがって有意水準を5%とすればこの結果から検定は有意となり帰無仮説は棄てられて、顧客間における

M, L, LLの比率はメーカーの見込んだ40%, 40%, 20%ではないと判定が下されたわけである。

以上の考え方をまとめるために他の例を示す。

例、メンデルの法則によれば、ある草花で赤い花と白い花の咲く割合は3:1となるはずであると言われるが、実際にある朝咲いた花は赤が7個白が5個であった。この観察の結果からこの場合メンデルの法則はそのままは成り立っていないように見えるが、どうであろうか。

この問題を適合度検定によってしらべて見よう。

解、帰無仮説として「赤白の比率は3:1である。」を採る。花の数!は7+5=12であるから赤白の理論度数は、赤は $12 \times 3/4=9$ 、白は $12 \times 1/4=3$ であ

標本度数	赤 7 (9)	白 5 (3)	計 12
------	---------	---------	------

る。これらを表の()内

に示した。標本値は7, 5と二つであり合計(12)が決まっているから自由度nは $n=2-1=1$ である。

この場合の χ_1^2 は

$$\chi_0^2 = \frac{(7-9)^2}{9} + \frac{(5-3)^2}{3} = \frac{16}{9} = 1.8$$

表より自由度 $n=1$ のときの $\chi_1^2(0.05) = 3.842$ 。

算出した $\chi_0^2=1.8 <$ 表の値 $\chi_1^2(0.05) = 3.842$ である。表より $\chi^2 \geq 3.842$ なる確率が5%であるから

($\chi^2 \geq \chi_0^2=1.84$)となる確率は5%より大きい。したがって検定は有意とならず、帰無仮説は棄てられない。すなわち「赤白の比が3:1であるというメンデルの法則にはしたがっていない。」と断定することはできないことが判明したわけである。これは「有意ならず。」という結果から母集団では「赤白の比が3:1である。」と断定したわけではない。結果は「不明である。」という事が判明したのである。

以上 χ^2 検定による適合度の検定法を示した。上例では理論度数の計算として比率を用いた場合だけを示したが、理論度数はその内容によって生物学物理学など種々の既知の学問経験によって求められるべき数値である。そしてある種の現象が既知の学問の示すとおりになって居るものか否かを見定める方法としてこの適合度検定は重要な役割りを果たすものであり、これによって学問の新しい進展も考えられるものである。このような意味においても推計学の重要性がうかがわれる。

主要経済指標

主 要 経

茨城県

年月	財政資金 対民間 収支	銀行勘定		銀行券		手形交換高		不渡手形		株式 取引高
		実質 預金	貸出金	増	減	枚数	金額	枚数	金額	
昭和45年	百万円 △44,896	百万円 r135,317	百万円 98,262	百万円 16,030	千枚 593	百万円 338,391	枚 11,218	百万円 1,596	百万円 83,727	
46	28,746	154,087	97,614	6,368	632	406,495	9,671	1,261	137,716	
47. 9	△13,065	32,600	10,053	963	115	58,791	1,087	199	19,031	
10	△10,895	2,055	5,436	2,819	117	65,466	1,125	162	24,804	
11	△15,018	34,241	6,025	2,576	116	59,371	1,026	130	31,456	
12	△2,763	24,143	32,283	30,642	130	73,055	783	160	28,881	
48. 1	13,455	△7,733	△4,246	△26,790	121	69,069	1,137	207	39,501	
2	6,779	13,676	12,782	3,621	112	61,429	851	172	23,341	
3	630	40,281	11,494	3,631	124	73,071	888	171	14,792	
4	△12,887	△2,261	3,157	△52	102	66,574	563	142	10,117	
5	3,777	21,792	△8,886	△499	135	76,748	1,126	299	12,869	
6	△8,786	19,975	17,965	10,645	125	72,491	852	221	9,243	
7	13,075	8,989	12,763	△2,735	123	72,290	805	195	20,681	
8	8,881	1,779	6,835	△4,860	121	71,677	812	195	11,964	
9	△19,644	26,967	10,835	5,239	105	62,999	629	373	5,470	

(注) 県民所得は年度数値

全 国

年月	財政資金 対民間 収支	全国銀行勘定		全国銀行 貸出約定 平均金利	銀行券 発行高	手形交換高		不渡手形	
		実質預金	貸出金			枚数	金額	枚数	金額
昭和46年	億円 △25,973	億円 487,593	億円 490,480	% 7.593	億円 64,077	千枚 399,420	億円 3,670,150	千枚 3,131	億円 7,555
47	△2,484	610,510	615,993	7.045	83,107	402,157	4,269,318	1,782	4,642
☆47.8	4,280	546,132	553,918	6.896	59,860	33,707	352,743	138	342
9	△3,319	565,843	569,631	6.811	61,379	32,997	382,116	137	366
10	△5,035	574,209	578,548	6.775	61,858	33,557	389,241	143	399
11	△8,470	594,487	590,226	6.751	63,982	33,409	377,884	139	385
12	849	610,510	615,993	6.724	83,107	39,236	465,088	117	381
48. 1	13,046	601,045	617,615	6.710	68,004	r33,027	417,821	138	352
2	△1,372	610,609	625,738	6.707	70,359	32,481	388,600	117	402
3	△9,661	637,499	640,269	6.712	72,212	35,176	470,794	132	442
4	△2,027	632,883	644,408	6.756	73,297	29,673	391,051	91	357
5	2,490	653,699	649,725	6.888	70,317	38,032	434,614	160	571
6	7,965	653,376	660,254	7.023	77,478	36,938	439,953	120	490
7	11,464	652,006	671,249	7.160	78,400	35,070	447,892	122	514
8	7,802	651,367	678,220	7.302	75,737	34,456	444,098	123	508

(注) ※は年度数値 ☆印月以降は沖縄県を含む。 就職件数の年数値は平均である。

濟 指 標

百貨店 売上高	鋁工業 生産指数 (総合)	建 築 着 工		雇用指数 (総合)	賃金指数 (総合)	消費者 物価指数 (水戸・総 合)	勞 働 市 場			年 月
		工 事 予 定	費 額				床 面 積	新規求職	新規求人	
百万円 13,108	100.0	百万円 160,129	千㎡ 5,228	100.0	100.0	100.0	件 42,154	人 78,980	件 21,613	昭和45年
17,679	113.8	166,285	4,774	101.0	115.9	106.9	48,434	65,020	23,055	46
1,463	139.1	16,038	428	99.7	109.8	111.8	3,592	9,677	2,016	47. 9
1,627	135.1	16,680	502	100.1	109.7	112.7	3,626	9,003	2,072	10
1,750	138.6	18,296	504	101.2	108.9	111.7	2,914	6,779	1,802	11
3,156	152.0	20,929	553	101.3	315.6	112.0	3,067	6,179	1,462	12
1,565	134.8	15,135	382	100.7	116.7	114.1	4,427	13,861	2,467	48. 1
1,573	139.9	19,730	474	100.0	110.5	115.5	4,378	10,188	2,206	2
2,066	171.9	19,135	491	100.0	115.8	118.1	3,969	19,939	2,620	3
1,889	157.0	19,446	439	111.5	116.2	120.9	3,745	10,291	2,264	4
1,790	154.1	27,072	615	111.3	124.7	122.8	3,111	10,259	1,900	5
1,893	163.6	21,689	493	111.7	227.8	123.5	3,372	10,459	1,852	6
2,296	160.2	29,601	625	111.3	188.6	124.7	3,453	10,013	2,203	7
1,721	165.1	110.3	131.9	125.7	3,803	12,691	1,936	8
2,033	130.2	3,522	12,146	2,095	9

資料：日本銀行水戸事務所 県統計課 建設省計画局調査統計課 県職業安定課

株 式 取 引 高	国 民 総 生 産	百 貨 店 売 上 高	鋁工業 生産指数 (総合)	建 築 着 工		雇用指数 (総合)	賃金指数 (総合)	消費者 物価指数 (総合)	就職件数	年 月
				工 事 予 定	費 額					
億円 188,512	億円 *810,932	億円 21,206	102.6	億円 72,942	千㎡ 197,737	101.1	114.5	106.1	千件 156	昭和46年
288,138	*952,248	25,272	110.1	97,122	242,310	102.3	132.9	110.9	150	47
25,730		1,757	107.4	8,476	21,382	109.7	114.1	111.6	123	☆47. 8
23,321		1,721	114.4	9,042	22,001	100.4	109.7	112.2	139	9
28,704	275,183	2,171	115.2	9,214	22,600	100.3	107.5	113.0	142	10
37,166		2,212	116.4	9,262	22,629	100.8	111.1	112.5	149	11
35,180		4,445	123.0	9,478	22,659	100.6	305.9	113.4	91	12
46,578	246,841	1,796	122.3	8,671	19,057	99.8	111.3	114.5	117	48. 1
27,115		1,797	122.3	8,841	19,653	101.1	108.5	115.4	123	2
14,684		2,513	126.9	11,454	23,730	101.3	115.6	118.4	189	3
9,443	253,071	2,299	126.0	12,074	24,303	103.9	115.8	120.7	291	4
13,642		2,167	129.3	11,069	22,646	104.0	121.9	122.8	199	5
9,729		2,255	129.4	11,831	23,420	104.1	204.6	123.0	138	6
19,646		3,239	129.8	104.0	229.6	123.9	...	7
10,568		2,120	103.5	140.3	125.0	...	8

資料：日本銀行統計局 通商産業省 建設省計画局調査統計課 総理府統計局 県職業安定課 労働大臣官房統計調査部

人 口

2 人 口

茨 城 県

2-1 世帯, 人口および人口移動

(単位: 世帯, 人)

年 月 日	世 帯 数	人 口			人 口 移 動				
		総 数	男	女	増減数	自 然 動 態		社 会 動 態	
						出 生	死 亡	転 入	転 出
昭和40年10月1日	447,871	2,056,154	1,007,852	1,048,302	7,761	34,447	16,533	△10,153	
45.10.1	508,537	2,143,551	1,054,003	1,089,548	37,413	38,228	17,214	16,399	
46.10.1	525,585	2,180,835	1,075,835	1,105,758	23,417	40,061	16,644	10,801	
47.10.1	537,960	2,210,636	1,090,757	1,119,879	2,119	3,459	1,201	7,825	7,964
11.1	538,754	2,214,058	1,092,721	1,121,337	3,428	3,536	1,264	9,334	8,178
12.1	539,597	2,217,165	1,094,429	1,122,736	3,094	3,445	1,342	8,400	7,409
48.1.1	539,988	2,219,975	1,095,870	1,124,105	2,808	3,359	1,426	8,229	7,354
2.1	540,750	2,223,366	1,097,658	1,125,708	3,373	3,817	1,698	9,424	8,170
3.1	541,654	2,226,883	1,099,483	1,127,400	3,497	3,482	1,707	9,919	8,197
4.1	542,244	2,224,189	1,097,961	1,126,228	△2,650	3,743	1,691	16,984	21,686
5.1	546,232	2,230,614	1,101,699	1,128,915	6,472	3,390	1,370	19,390	14,938
6.1	547,840	2,234,845	1,103,855	1,130,990	4,211	3,760	1,359	11,446	9,636
7.1	548,795	2,238,080	1,105,482	1,132,598	3,235	3,297	1,240	8,791	7,621
8.1	549,562	2,241,950	1,107,486	1,134,464	3,870	3,529	1,324	8,889	7,205
9.1	550,619	2,246,708	1,109,890	1,136,818	4,758	3,482	1,323	7,734	10,318
10.1	551,436	2,250,372	1,111,694	1,138,678	2,219	3,358	1,139	8,496	7,062

(注) 人口移動のうち1 昭和40年~昭和46年については各年の年間数値を示す。
2 昭和47年, 48年の月別人口移動については前月の月間数値を示す。

資料: 県統計課

2-2 市 町 村 別 人 口 と 世 帯

(単位: 人, 世帯)

市 町 村	昭和45年 10月1日 人口総数	4 8 年 10 月 1 日			市 町 村	昭和45年 10月1日 人口総数	4 8 年 10 月 1 日		
		人口総数	増減数	世帯数			人口総数	増減数	世帯数
総 数	2,143,551	2,250,372	3,653	551,436	竜ヶ崎市	37,267	38,763	87	8,725
市 部	1,064,697	1,118,533	1,653	290,250	那珂湊市	32,873	32,814	34	8,082
郡 部	1,078,854	1,131,839	2,000	261,186	下妻市	27,699	28,131	62	6,402
水 戸 市	173,789	188,003	331	54,180	水海道市	36,679	37,707	59	8,835
日 立 市	193,210	199,533	168	52,924	常陸太田市	35,470	35,346	2	8,769
土 浦 市	89,958	98,419	167	26,391	勝 田 市	66,754	75,819	197	18,452
古 河 市	54,173	55,610	106	14,728	高 萩 市	29,548	30,140	50	8,050
石 岡 市	39,508	41,649	82	10,756	北茨城市	48,323	43,827	20	11,173
下 館 市	53,863	56,181	103	13,635	笠 間 市	30,522	30,727	16	7,376
結 城 市	39,561	41,527	95	9,771	取 手 市	40,287	46,569	94	12,705
					岩 井 市	35,213	37,768	20	8,296

人 口

市 町 村	昭和45年	4 8 年 10 月 1 日			市 町 村	昭和45年	4 8 年 10 月 1 日		
	10月1日 人口総数	人口総数	増減数	世帯数		10月1日 人口総数	人口総数	増減数	世帯数
東茨城郡	127,920	129,289	122	30,367	稲敷郡	111,969	119,493	242	27,302
常澄村	9,094	9,040	20	1,940	江戸崎町	12,088	12,226	8	2,934
茨城町	28,956	30,149	33	6,834	美浦村	8,066	8,098	23	1,773
小川町	16,650	16,798	3	3,781	阿見町	24,907	27,090	48	6,150
美野里町	14,872	15,627	48	3,689	牛久町	19,372	24,424	119	6,231
内原町	12,935	13,047	△7	2,910	荃崎村	6,461	6,907	30	1,510
常北町	10,785	10,673	7	2,615	新利根村	8,621	8,526	8	1,829
桂村	7,223	6,940	△2	1,743	河内村	11,720	11,620	△4	2,480
御前山村	5,751	5,465	17	1,327	桜川村	7,882	7,808	8	1,732
大洗町	21,654	21,150	3	5,528	東村	12,852	12,794	2	2,663
西茨城郡	59,393	61,172	36	14,285	新治郡	80,437	83,232	192	18,731
友部町	20,462	21,818	91	5,165	出島村	16,582	16,677	△11	3,733
岩間町	14,121	14,421	23	3,384	玉里村	5,445	5,708	91	1,806
七会村	3,159	3,028	9	687	八郷町	27,433	26,974	20	5,771
岩瀬町	21,651	21,905	△72	5,049	千代田村	13,680	15,483	73	3,593
那珂郡	103,965	108,541	212	25,876	新治村	8,355	8,422	△6	1,913
東海村	18,960	23,237	77	5,644	桜村	8,942	9,968	25	2,425
那珂町	31,213	32,371	76	7,521	筑波郡	83,779	88,121	176	19,933
瓜連町	7,043	7,120	△5	1,652	谷田部町	20,134	20,806	38	4,816
大宮町	23,306	23,506	39	5,654	伊奈村	11,171	13,691	54	3,097
山方町	10,559	10,012	6	2,508	谷和原村	10,625	10,108	25	2,169
美和村	6,589	6,239	13	1,431	豊里町	10,409	10,699	32	2,334
緒川村	6,295	6,056	9	1,466	筑波町	21,308	21,429	3	4,990
久慈郡	60,624	57,828	40	13,648	大穂町	10,856	11,388	24	2,527
金砂郷村	12,237	11,641	△10	2,721	真壁郡	71,965	73,302	116	16,063
水府村	9,314	8,686	10	2,005	関城町	14,226	14,542	18	3,086
里美村	6,120	5,718	22	1,350	明野町	16,091	16,451	37	3,478
大子町	32,953	31,783	41	7,572	真壁町	20,312	20,406	26	4,721
多賀郡	9,646	9,489	7	2,352	大和村	7,206	7,211	21	1,519
十王町	9,646	8,489	7	2,352	協和町	14,130	14,692	14	3,259
鹿島郡	129,179	147,263	378	36,212	結城郡	48,231	48,805	77	10,465
旭村	10,151	10,141	3	2,137	八千代町	21,945	21,996	14	4,517
鉾田町	26,165	26,554	27	6,184	千代川村	7,813	7,875	24	1,727
大洋村	8,803	9,210	17	1,999	石下町	18,473	18,934	39	4,221
大野村	9,524	10,190	47	2,138	猿島郡	87,281	95,147	226	20,784
鹿島町	25,176	32,888	105	9,137	総和町	24,999	29,805	101	7,051
神栖町	22,173	27,634	147	6,941	五霞村	8,382	8,469	△3	1,717
波崎町	27,187	30,916	32	7,676	三和町	18,487	19,550	67	4,035
行方郡	67,594	70,003	60	15,919	猿島町	13,640	13,869	30	2,770
麻生町	18,063	18,313	12	4,035	猿境町	21,773	23,454	47	5,211
牛堀町	6,569	6,763	14	1,565	北相馬郡	36,871	40,154	116	9,249
潮来町	18,436	20,745	20	4,931	守谷町	12,300	13,284	47	3,004
北浦村	10,949	10,762	11	2,324	藤代町	16,309	18,458	8	4,409
玉造町	13,577	13,420	3	3,064	利根町	8,262	8,412	61	1,836

(注) (1)45年は国勢調査結果。(2)48年10月1日については推計で、うち増減数は外国人を含まない前1カ月の移動状況である。

資料：県統計課

労働

3 労働

茨城県 3-1 現金給与総額 (単位: 1人1カ月当たり, 円)

年 月	調査産業総数	業 別							
		鉱 業	建設業	製造業	卸 売・ 小 売 業	金 保 融 通 業	運 輸・ 通 信 業	電 気・ガ 斯・ 水 道 業	
昭和45年	67,429	78,173	68,842	64,558	57,113	80,645	80,507	100,098	
46	78,153	87,714	82,110	74,830	63,424	90,421	96,651	108,524	
47	91,167	105,455	95,063	87,474	70,742	103,833	112,073	125,245	
47. 8	73,129	94,316	75,988	70,081	67,577	75,789	88,102	99,182	
9	74,041	86,057	76,906	70,349	57,225	73,813	101,978	99,734	
10	73,990	89,715	79,752	70,721	58,519	74,711	97,113	97,521	
11	73,435	90,258	79,771	70,718	59,334	76,268	91,475	94,517	
12	212,807	231,305	206,758	203,524	152,913	295,934	262,947	305,083	
48. 1	78,699	87,537	77,691	77,025	72,079	78,261	90,894	100,078	
2	74,520	86,802	81,195	72,949	60,863	71,603	87,632	99,377	
3	78,100	93,424	91,257	73,510	60,314	97,638	98,803	106,972	
4	78,115	93,024	79,784	73,747	65,889	75,883	106,101	104,152	
5	83,810	94,385	80,157	83,779	71,875	88,050	91,112	115,020	
6	153,163	143,536	130,127	156,288	94,814	182,611	165,346	336,227	
7	126,811	173,913	145,695	121,811	128,074	127,055	148,382	116,122	
8	83,698	107,807	84,684	83,882	82,430	85,068	130,462	103,807	

(注) 1 3年ごとに標本抽出替えがおこなわれるため実数を直接比較することはできない。 資料: 県統計課
2 規模30人以上の事業所

茨城県 3-3 産 業 別 雇 用

年 月	調 査 産 業 総 数				鉱 業		建 設 業		
	雇 用		賃 金		雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	
	対前月(年) 比 較	対前月(年) 比 較	対前月(年) 比 較	対前月(年) 比 較					
	昭和45年の実数 219,537人				67,429円	4,983人	78,173円	9,609人	68,842円
昭和45年	100.0	6.1	100.0	16.5	100.0	100.0	100.0	100.0	
46	104.1	4.1	115.3	15.3	72.3	112.9	120.5	117.6	
47	106.7	2.6	133.7	18.4	45.4	136.5	141.8	134.2	
47. 8	106.6	△ 0.4	107.2	△ 50.7	45.2	122.1	136.3	107.1	
9	106.6	△ 0	108.5	1.3	44.3	111.5	134.7	108.3	
10	107.4	0.8	108.4	△ 0.1	43.7	116.3	138.8	112.1	
11	108.8	1.4	107.5	△ 0.9	44.3	117.0	150.7	112.0	
12	109.2	0.4	311.4	203.9	43.9	300.0	157.1	290.0	
48. 1	108.8	△ 0.4	115.1	△ 196.3	43.0	113.7	154.8	108.3	
2	108.3	△ 0.5	108.9	△ 6.2	32.1	112.7	153.5	113.6	
3	108.5	0.2	114.1	5.2	30.2	121.1	152.4	127.5	
4	111.5	3.0	116.2	2.1	30.2	118.6	152.2	116.8	
5	111.3	△ 0.2	124.7	8.5	29.8	120.4	148.6	117.3	
6	111.7	0.4	227.8	103.1	24.2	183.0	152.0	190.4	
7	111.3	△ 0.4	188.6	△ 35.2	24.0	221.8	156.9	213.2	
8	110.3	△ 1.0	131.9	△ 56.7	24.0	137.5	149.1	123.9	

(注) 規模30人以上の事業所 48年4月の標本抽出替えにともないギャップ修正を行なった。

労 働

茨城県 3-2 労働時間 (単位：1人1カ月当たり，時間)

年 月	調査産業 総 数	対 前 月 (年)比較	鉱 業	建設業	製造業	卸 売 小売業	金融・ 保険業	運輸・ 通信業	電気・ ガス・ 水道業	所定内労働時間	
										全産業	製造業
昭和45年	189.4	△ 1.9	195.3	192.1	189.8	188.3	171.8	193.5	172.2	169.2	168.9
46	184.7	△ 4.7	194.1	197.7	183.7	185.0	166.7	192.6	172.2	168.3	168.3
47	184.7	—	190.0	199.4	184.2	184.3	163.0	192.6	170.8	167.9	167.9
47. 8	176.5	△13.9	179.5	199.7	172.2	181.8	169.8	192.4	183.1	161.2	158.0
9	189.9	13.4	198.6	201.0	191.3	188.6	158.8	194.0	164.1	172.0	173.6
10	185.2	△4.7	190.2	204.4	185.0	181.8	162.1	192.6	171.2	167.3	167.4
11	188.3	3.1	190.5	207.2	187.8	186.4	161.0	198.8	164.3	169.5	169.3
12	190.9	2.6	186.5	203.4	191.2	190.6	167.6	196.6	175.3	171.0	171.6
48. 1	168.6	△22.3	175.4	177.0	166.6	171.6	152.2	183.1	159.0	152.3	150.8
2	188.7	20.1	172.6	198.8	190.8	184.9	159.6	189.3	165.2	169.4	170.7
3	183.0	△5.7	175.1	194.4	182.7	184.3	170.1	186.2	173.0	163.1	162.4
4	190.2	7.2	176.0	202.1	190.0	192.2	163.4	196.9	170.4	171.4	171.3
5	172.9	△17.3	163.0	183.7	167.1	186.7	164.2	199.0	167.0	155.8	150.6
6	194.7	21.8	179.9	205.3	195.2	197.9	168.4	206.0	177.0	175.5	175.4
7	191.8	△2.9	202.7	209.0	190.3	187.0	170.2	206.9	175.1	172.8	171.1
8	177.9	△13.9	189.9	191.8	172.6	183.0	166.7	205.9	178.3	166.0	156.2

(注) 規模30人以上の事業所

資料：県統計課

賃 金 指 数

(昭和45年=100.0)

製 造 業		卸 売・小 売 業		金 融・保 險 業		運 輸・通 信 業		電 気・ガ ス・水 道 業	
雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金
152,049人	64,558円	15,781人	57,113円	9,596人	80,645円	24,639人	80,507円	2,585人	100,098円
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
103.0	115.2	116.3	115.0	107.7	111.0	100.5	120.0	103.8	107.7
104.6	133.7	127.0	132.6	107.6	126.0	101.6	139.0	111.5	123.5
104.4	107.1	128.6	127.0	109.3	91.9	101.9	109.3	112.3	97.8
104.7	107.5	127.7	107.8	109.3	89.4	100.7	126.5	113.5	98.3
105.7	108.0	128.9	110.5	107.6	90.4	100.2	120.5	113.8	96.1
106.8	107.9	131.0	112.4	107.7	92.2	100.5	113.5	114.3	93.0
107.1	310.4	132.8	290.4	105.6	357.5	99.6	326.2	115.1	300.2
106.8	117.4	133.1	137.3	104.2	94.5	99.2	112.7	115.5	98.4
106.7	111.1	132.1	116.2	104.2	86.3	98.5	108.7	116.8	97.7
107.0	111.9	133.3	115.5	104.9	117.6	97.3	122.5	119.2	105.1
110.4	114.6	137.3	113.2	106.9	95.9	98.6	131.8	119.2	104.4
110.2	130.2	141.7	123.5	108.0	109.8	97.7	113.2	119.2	115.3
111.0	242.9	140.1	162.9	109.0	227.7	96.6	205.4	121.5	337.0
110.2	189.3	139.9	220.1	106.8	158.5	96.4	184.4	120.7	116.4
109.5	130.4	138.5	141.7	107.5	106.1	95.4	162.1	123.1	104.0

資料：県統計課

農 業

4 農 業

4-1 農産物の平均販売価格

(単位：円)

茨城県

年 月	うるち米 (玄米60kg)	生 乳 (飲用10kg)	鶏 卵 (10kg)	肉 豚 (生体10kg)	乳用牛 (めす, 生後6カ月 ホルスタ イン純種 (1頭当たり))	だいこん (1kg当たり)	きゃべつ (1kg当たり)	きゅうり (1kg当たり)
45年	8,233	493	2,386	2,698	63,000	26	38	85
46	8,433	533	2,277	2,604	69,667	16	25	151
47.10	8,717	535	2,148	2,487	82,000	17	9	68
11	8,917	532	2,374	2,500	83,667	18	8	138
12	8,983	532	2,543	2,515	90,333	17	13	290
48. 1	8,850	532	1,922	2,581	92,000	22	19	224
2	8,983	533	2,081	2,808	102,000	24	25	228
3	9,150	572	2,424	2,820	105,333	83	40	154
4	9,183	568	1,913	2,729	128,667	45	63	164
5	9,233	577	1,633	2,724	128,667	42	74	123
6	9,267	576	1,718	2,896	128,667	22	25	81
7	9,167	573	1,618	2,740	131,667	24	40	50
8	9,433	572	1,623	2,908	131,667	44	34	109
9	9,700	572	2,698	3,018	131,667	50	53	101
10	9,933	572	2,317	2,749	135,000	24	34	75

(注)昭和45年以降の価格は、それぞれの代表生産地における価格である。資料：農林省茨城統計情報事務所
また、だいこん、きゃべつ、きゅうりは水戸市公設地方卸売市場の卸売価格による。 水戸市公設地方卸売市場

茨城県

4-2 農 業 用 品 の 購 入 価 格

(単位：円)

年 月	乳用牛 (成畜めす ホルスタ イン純種 (1頭当たり))	子 豚 (めす, 生 後60~90 日, ラン ドレース (1頭当たり))	硫 安 (N 21% 樹脂袋 40kg)	過りん酸 石 灰 紙 袋 40 kg, 可溶 性りん酸 17%	複合肥料 (N8%, P 8%, K5 %, 樹脂 袋30kg)	配合飼料 (成鶏用, 紙袋20kg 粗たん白 15~19%)	配合飼料 (乳牛用, 紙袋30kg 粗たん白 15~18% 以上)	M.E.P乳剤 (スミチオン (ニコチン 含量50% 100cc)
昭和45年	193,750	6,200	723	638	621	945	746	...
46	202,500	8,375	736	665	638	935	752	180
47. 10	248,750	10,125	723	675	662	758	717	190
11	259,000	9,375	723	675	662	758	717	190
12	259,000	9,000	723	675	662	758	717	190
48. 1	262,750	9,500	720	678	677	843	762	190
2	281,250	11,125	720	668	685	853	788	190
3	290,000	11,750	720	668	685	948	865	190
4	331,250	12,250	726	670	688	948	877	193
5	336,250	11,530	730	670	688	921	877	193
6	r336,250	11,000	730	670	688	921	878	193
7	331,200	10,750	736	670	688	921	878	193
8	350,000	10,875	736	708	730	921	878	215
9	350,000	11,000	740	760	757	1,184	1,038	215
10	372,500	9,500	740	760	757	1,184	1,038	265

(注) 昭和45年以降の価格は農業地域代表市町村の価格である。

資料：農林省茨城統計情報事務所

5 鉱工業

茨城県

鉱工業生産指数

(昭和45年=100.0)

年 月	産業総合	公益事業	鉱工業	鉱業	製造工業	鉄鋼業	非鉄金属工業	金属製品工業	機械工業		
	品目数 109	2	107	6	101	9	5	5	41	7	26
	ウエイト										
	10,000.0	228.2	9,771.8	144.1	9,627.7	567.6	1,201.1	355.3	4,523.4	1,161.7	2,938.3
昭和45年	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
46	127.6	721.3	113.8	98.4	114.1	144.6	94.6	100.7	103.2	95.7	100.5
47	164.3	1,454.6	133.9	81.6	134.7	199.3	108.3	216.8	106.2	114.5	105.4
47. 8	174.2	1,831.6	135.5	70.4	136.5	202.3	108.6	234.0	93.8	97.7	93.2
9	171.9	1,578.9	139.1	80.5	140.0	205.1	106.8	265.1	112.1	112.8	114.6
10	164.8	1,437.0	135.1	87.8	135.8	218.3	114.0	264.5	103.7	126.4	96.7
11	167.3	1,398.7	138.6	91.3	139.4	222.9	111.1	246.1	107.4	108.7	116.5
12	192.6	1,930.8	152.0	90.4	153.0	243.0	115.6	243.5	122.3	116.9	127.8
48. 1	168.7	1,621.1	134.8	75.4	135.7	243.2	97.7	176.5	105.3	100.1	108.4
2	164.8	1,230.1	139.9	62.6	141.1	228.6	114.2	195.2	106.1	88.1	115.8
3	204.0	1,578.6	171.9	41.9	173.9	260.2	143.3	189.5	146.3	216.3	124.3
4	187.1	1,475.1	157.0	47.9	158.6	298.1	130.2	196.6	104.8	92.8	112.5
5	187.5	1,613.8	154.1	45.2	155.7	324.2	136.3	215.0	103.5	106.2	105.0
6	199.7	1,744.1	163.6	48.7	165.3	327.9	138.3	220.0	126.7	105.2	138.4
7	205.3	2,137.1	160.2	52.7	161.8	343.8	141.4	224.1	118.9	115.4	122.6
8	212.6	2,250.2	165.1	48.0	166.9	355.5	136.3	217.2	116.4	154.6	105.6

年 月	鉱工業									
	製 造 工 業									
	機械工業		窯業・土石製品工業	化学工業	石油・炭製品工業	パルプ・紙・紙加工品工業	繊維工業	木材製品工業	食料品工業	その他の工業
	輸送機械	精密機械								
	品目数 5	3	2	18	2	2	3	1	7	9
	ウエイト									
	273.7	149.7	627.6	157.1	168.7	162.2	130.4	246.9	779.0	708.4
昭和45年	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
46	153.6	120.5	101.4	344.1	188.2	101.2	100.4	96.4	157.0	106.2
47	106.5	70.1	121.9	471.4	193.0	123.8	106.9	109.0	214.3	120.4
47. 8	106.7	73.0	123.5	526.2	224.5	129.6	110.0	107.5	266.1	132.6
9	118.3	65.5	114.3	445.2	176.8	137.1	98.8	115.5	225.7	125.9
10	95.5	78.8	123.7	461.9	199.5	136.3	108.5	133.2	183.6	122.0
11	87.7	73.6	133.2	523.9	207.2	130.8	119.0	110.7	197.5	125.8
12	115.9	69.7	158.1	567.6	211.2	133.2	116.2	112.3	224.2	131.4
48. 1	116.9	63.2	138.4	580.3	197.2	132.2	98.7	107.5	198.6	119.9
2	106.7	53.6	143.6	536.4	223.7	133.2	115.2	93.0	239.4	118.4
3	134.4	56.4	160.6	631.1	219.4	146.6	123.2	89.8	309.9	120.9
4	106.2	45.8	159.9	621.3	308.4	140.6	118.7	97.9	284.7	179.3
5	106.9	46.3	130.3	592.5	245.5	149.3	111.0	96.3	282.3	154.2
6	136.3	49.3	131.5	417.1	223.2	153.4	122.8	110.7	297.5	143.6
7	131.4	50.2	147.5	277.5	130.9	153.9	118.0	107.5	314.5	147.8
8	114.2	36.4	136.1	628.5	264.5	151.1	107.0	85.0	319.3	140.9

資料：県統計課

金 融

6 金 融

茨城県 6-1 金融機関別実質預金・貸出残高 (単位：百万円)

年 月 末	総 額		銀 行		相 互 銀 行		信 用 金 庫	
	預 金	貸 出	預 金	貸 出	預 金	貸 出	預 金	貸 出
昭和44年12月末	629,849	372,008	371,388	206,763	64,118	45,528	55,160	40,828
45	765,166	470,270	447,476	259,180	80,413	59,513	68,094	51,699
46	919,253	567,884	535,716	311,956	100,993	75,704	85,103	63,029
47. 9	1,070,997	652,177	635,449	355,655	79,830	91,590	99,950	72,666
10	1,087,697	661,192	637,504	301,091	120,327	92,833	103,497	74,812
11	1,134,888	673,158	671,745	367,116	125,034	95,816	106,203	77,717
12	1,198,136	720,258	695,888	399,399	135,783	101,985	115,617	82,498
48. 1	1,186,207	712,859	688,155	395,153	131,771	101,233	114,831	82,232
2	1,200,703	735,361	701,831	407,935	133,427	104,718	116,583	84,874
3	1,253,734	761,593	742,112	419,429	139,563	109,301	119,542	88,359
4	1,256,420	768,768	739,851	422,586	139,538	109,920	122,265	89,787
5	1,286,894	765,371	761,643	413,700	142,203	109,182	125,183	92,518
6	1,330,683	796,906	781,618	431,665	148,600	112,699	128,019	95,973
7	1,349,214	819,858	790,607	444,428	149,080	114,668	132,457	97,883
8	1,361,726	837,106	792,386	451,263	152,013	116,415	134,696	100,950
9	p 1,411,133	p 858,634	819,353	462,098	158,609	120,813	137,662	102,908

年 月 末	信 用 組 合		農 協		漁 協		そ の 他	
	預 金	貸 出	預 金	貸 出	預 金	貸 出	預 金	貸 出
昭和44年12月	39,112	29,933	60,400	33,659	1,373	4,799	7,298	10,498
45	49,060	37,039	108,845	43,622	1,691	5,141	9,587	14,076
46	60,193	42,652	123,074	52,625	1,885	5,099	12,289	16,819
47. 9	68,338	47,703	130,885	59,118	2,089	5,300	14,456	20,145
10	68,379	47,969	141,234	58,463	2,245	5,382	14,511	20,642
11	70,237	49,258	144,171	56,374	2,460	5,277	15,038	21,600
12	77,712	52,526	155,241	56,610	2,257	5,356	16,338	21,884
48. 1	75,373	51,357	157,500	56,150	2,258	5,327	16,821	21,407
2	77,391	53,396	153,003	57,754	2,337	5,395	16,131	21,289
3	81,123	56,428	151,327	60,334	3,302	5,959	16,765	21,774
4	80,986	55,629	151,775	62,290	3,302	5,959	17,564	22,597
5	83,517	57,956	12,778	63,388	2,398	5,512	17,289	23,115
6	86,773	60,446	163,925	66,520	2,738	5,488	19,010	24,115
7	89,130	62,992	165,380	69,117	2,782	5,724	19,778	25,046
8	91,310	65,006	169,162	70,902	2,475	6,083	19,684	26,480
9	96,136	68,394	p176,805	p71,181	2,475	6,083	20,095	27,157

(注) その他には労働金庫・商工中金を含む。

資料：日本銀行水戸事務所

7 電力

産業別電力消費量

(単位: MWH)

年度・月	総数	農林・水産	鉱業	建設業	製造業	運輸	電気・ガス	その他
		養殖業				通信業	水道業	
昭和44年度	2,041,414	2,809	145,003	31,406	1,690,408	120,734	35,306	15,748
45	2,568,618	3,534	150,777	57,100	2,150,671	123,498	49,207	27,885
46	3,668,300	4,542	87,836	54,840	3,269,997	129,165	71,279	50,641
47. 9	301,908	348	7,256	4,440	268,786	9,835	6,752	4,491
10	336,485	401	7,378	5,389	301,242	10,713	6,724	4,638
11	319,767	412	7,435	3,926	286,615	10,953	6,247	4,179
12	327,176	446	7,405	3,826	292,416	11,992	6,724	4,367
48. 1	335,945	452	6,652	2,770	302,601	12,169	6,780	4,521
2	320,904	479	5,237	4,831	286,870	11,008	6,898	5,581
3	332,120	494	5,041	3,592	297,437	11,362	6,826	7,368
4	383,751	491	4,925	2,935	282,615	9,870	6,917	5,998
5	323,718	484	4,762	2,888	290,636	10,362	7,138	7,448
6	322,249	425	4,390	2,536	291,377	9,972	7,415	6,134
7	306,953	444	4,582	2,917	271,833	10,885	8,598	7,694
8	314,253	491	4,578	4,414	277,348	11,703	8,142	7,577
9	342,017	521	4,434	4,161	311,809	10,695	7,967	6,591

(注) 数値は東京電力茨城支店の取扱い分である。

資料: 東京電力茨城支店

8 運輸

鉄道貨物品種別輸送状況

(単位: 百トン)

年度・月	総量	鉱産品	林産品	農産品	畜産品	水産品	金属機器	化学	食料	繊維	その他
							工業品	工業品	工業品	工業品	
昭和44年度	65,558	31,462	1,147	4,421	20	1,267	4,175	18,070	763	1,014	3,219
45	65,711	30,829	1,182	4,327	11	1,015	4,482	19,089	715	974	3,087
46	56,953	21,805	1,007	4,754	12	1,039	4,365	19,637	652	734	1,161
47. 10	4,341	1,677	53	377	1	147	349	1,406	58	48	229
11	4,549	1,585	53	450	1	163	340	1,611	67	40	235
12	4,798	1,579	69	476	1	149	356	1,840	55	41	232
48. 1	4,397	1,421	58	475	0	125	328	1,688	45	50	206
2	4,248	1,308	65	324	0	76	334	1,849	44	46	203
3	3,804	1,259	73	263	0	114	301	1,552	45	35	163
4	3,547	1,037	58	275	0	128	341	1,448	43	41	175
5	4,039	1,297	65	348	0	141	378	1,468	52	56	234
6	4,087	1,270	64	302	0	129	393	1,596	40	60	232
7	4,292	1,267	57	257	0	154	421	1,826	40	54	216
8	3,662	1,113	44	233	0	139	374	1,469	45	57	187
9	3,803	1,231	56	242	0	114	330	1,549	64	49	167
10	4,332	1,276	62	282	1	133	422	1,817	55	70	214

(注) 数値は国鉄および民鉄の合計である。

資料: 水戸鉄道管理局

家 計

9 家 計

9-1 家 計 主 要 指 標

(単位：円，%)

年 月	勤 勞 者 世 帯									全 世 帯		消費者 物 価 指 数
	実 収 入	可 処 分 所 得 ⁽¹⁾	消 費 支 出	黒 字 ⁽²⁾	貯 蓄 純 増	平 均 消 費 性 向 ⁽³⁾	実 質 収 入 指 数 ⁽⁴⁾	実 質 消 費 支 出 指 数 ⁽⁴⁾	消 費 支 出	エンゲル 係 数 ⁽⁵⁾		
水 戸 市												
昭和45年	116,677	106,180	86,608	19,572	53,177	81.6	100.0	100.0	84,993	30.1	100.0	
46	139,939	126,857	98,096	28,761	18,830	77.3	112.2	106.0	90,495	30.2	106.9	
47. 8	98,621	89,388	97,402	△8,014	△12,716	109.0	76.4	101.6	89,643	33.6	110.7	
9	112,276	100,337	100,556	△218	△5,013	100.2	86.1	103.9	90,639	31.3	111.8	
10	115,013	102,328	97,408	4,920	648	95.2	87.5	99.8	89,120	32.4	112.7	
11	111,761	102,211	99,396	2,815	△ 86	97.2	86.2	102.7	92,864	30.2	111.7	
12	375,263	341,936	146,531	195,406	154,904	42.9	287.5	151.1	135,927	29.4	112.0	
48. 1	122,453	110,995	100,451	10,544	15,305	90.5	92.0	101.7	97,074	26.7	114.1	
2	118,856	107,184	95,739	11,445	1,631	89.3	84.3	91.4	92,389	31.2	120.9	
3	133,529	123,743	120,060	3,683	3,829	97.0	96.9	117.3	107,826	26.6	118.1	
4	134,844	123,310	125,886	8,958	12,091	102.0	95.6	120.2	109,480	25.5	120.9	
5	138,937	122,017	114,352	7,876	9,108	93.7	97.0	107.5	107,059	31.4	122.8	
6	231,467	209,995	113,351	96,634	63,522	54.0	160.6	105.9	109,492	27.7	123.5	
7	152,491	138,738	115,992	22,386	18,958	83.8	104.8	107.4	106,848	31.1	124.7	
8	117,068	107,223	87,481	19,742	14,526	81.6	79.0	80.0	85,073	35.0	125.7	
全 国												
昭和45年	112,949	103,634	82,582	21,052	13,480	79.7	100.0	100.0	79,531	34.1	100.0	
46	124,562	114,309	91,285	23,023	15,515	79.9	104.0	104.1	87,475	33.3	106.1	
47. 8	121,826	111,733	98,811	12,922	8,329	88.4	96.7	107.3	95,600	33.5	111.6	
9	115,411	105,640	91,708	13,932	8,547	86.8	91.1	99.0	89,149	35.4	112.2	
10	115,506	104,668	96,713	7,955	4,757	92.4	90.5	103.6	94,699	33.6	113.0	
11	116,235	105,963	95,122	10,841	2,464	89.8	91.5	102.4	92,797	33.2	112.5	
12	323,489	296,916	157,790	139,127	99,544	53.1	252.6	168.5	146,836	29.5	113.4	
48. 1	117,432	106,514	93,445	13,068	21,166	87.7	90.8	98.9	92,183	29.2	114.5	
2	114,985	104,462	93,877	10,585	412	89.9	88.2	98.5	91,099	32.0	115.4	
3	133,357	120,937	114,170	6,767	3,059	94.0	99.7	116.8	110,063	29.5	118.4	
4	126,041	114,095	108,811	5,235	△2,991	95.0	92.3	109.0	104,784	29.9	120.9	
5	125,983	113,429	106,395	7,034	5,600	93.8	90.8	104.9	103,255	34.3	122.8	
6	211,731	193,347	112,516	80,830	53,452	58.2	152.4	110.7	105,694	32.8	123.0	
7	188,096	171,523	122,921	48,902	38,372	71.5	134.4	119.8	115,774	31.4	123.9	
8	144,047	131,832	112,969	18,863	10,156	85.7	102.0	101.0	109,666	33.2	125.0	

(注) (1) 実収入-非消費支出 (2) 可処分所得-消費支出
 (3) 消費支出÷可処分所得 (4) 当該項目(45年=100)÷消費者物価指数
 (5) 食料費÷消費支出

資料：総理府統計局

9-2 1ヵ月1世帯当たりの収入と支出（勤労者世帯）

水戸市		収 入					(単位：世帯，人，歳，円)					
年 月	集 計	世 帯	有 業	世帯主	収入(支出)	実 収 入						
	世帯数	人 員	人 員	の年齢	総 額		勤め先収入	事業・内 職 収 入	他 の 実収入	実収入以 外の収入	前月から の繰入金	
昭和45年	73	3.86	1.38	41.2	172,987	116,677	108,261	2,699	5,716	23,252	33,059	
46	66	3.90	1.51	44.0	206,439	139,939	129,334	2,741	7,864	29,884	36,616	
47. 8	60	3.60	1.30	43.5	181,056	96,621	91,654	2,334	4,633	32,609	49,827	
9	63	3.60	1.32	42.8	197,874	112,276	103,495	4,745	4,036	43,822	41,776	
10	61	3.59	1.33	42.7	187,141	115,013	108,273	2,064	4,676	25,241	46,887	
11	59	3.64	1.36	41.7	186,960	99,848	99,848	1,948	9,965	29,668	45,532	
12	63	3.78	1.37	41.7	446,290	375,263	366,819	2,568	5,875	30,028	40,999	
48. 1	63	3.87	1.48	43.4	196,393	122,453	113,437	3,908	5,109	15,284	58,655	
2	64	3.86	1.52	43.2	194,544	118,856	113,143	2,666	3,047	24,893	50,795	
3	64	3.91	1.53	42.9	224,044	137,212	125,635	6,136	5,440	32,110	54,722	
4	64	3.89	1.52	42.5	217,943	134,844	123,396	5,943	5,506	30,549	52,549	
5	66	3.92	1.48	42.5	222,631	138,937	123,220	7,832	7,885	33,080	50,614	
6	68	3.76	1.40	40.4	320,566	231,467	219,549	5,390	6,528	44,909	44,190	
7	65	3.69	1.32	39.4	242,120	152,491	141,585	4,107	6,800	28,026	61,603	
8	61	3.87	1.33	39.0	181,529	117,068	112,100	1,779	3,190	18,821	45,639	

水戸市		支 出									
年 月	実支出	消 費 支 出						非消費 支 出	実支出 以外の 支 出	繰越金	現 物 総 額
		計	食料費	住居費	光熱費	被服費	雑 費				
昭和45年	97,105	86,608	25,014	9,258	3,190	10,366	38,761	10,497	42,794	33,088	5,477
46	111,178	96,096	27,343	10,222	3,384	11,507	45,640	13,082	57,179	38,081	7,328
47. 8	106,635	97,402	29,192	13,034	2,436	7,931	44,810	9,233	33,502	40,919	7,625
9	112,495	100,556	28,356	13,484	2,792	8,363	47,561	11,939	37,675	47,703	5,169
10	110,093	97,408	26,862	11,189	2,859	12,170	44,326	12,685	29,709	47,336	4,912
11	108,946	99,396	26,386	6,470	3,259	16,142	47,140	9,550	32,554	45,460	5,506
12	179,857	146,531	39,842	17,777	4,607	17,413	66,892	33,327	207,424	59,009	17,323
48. 1	111,909	100,451	24,954	6,359	4,496	9,549	55,096	11,488	34,998	49,486	8,832
2	107,412	95,739	28,413	7,632	4,654	12,048	42,992	11,672	28,351	58,781	5,118
3	133,529	120,060	31,917	5,471	4,847	18,023	59,802	13,469	38,103	52,412	7,926
4	125,886	114,352	32,093	10,403	4,025	13,122	54,708	11,534	46,397	45,660	7,007
5	131,061	114,141	35,960	7,826	2,988	14,087	53,280	16,920	44,221	47,349	6,850
6	134,832	113,351	31,435	9,500	3,011	14,291	55,114	21,482	124,863	60,870	7,902
7	130,106	115,992	33,484	10,254	2,701	13,585	55,969	14,113	60,192	51,823	13,098
8	97,326	87,481	30,610	6,766	2,210	6,160	41,735	9,845	36,384	47,819	8,805

(注) 集計世帯数，世帯人員，有業人員，世帯主年齢は支出にも該当する。

資料：総理府統計局

物 価

10 物 価

物 価 指 数

水 戸 市

年 月	消 費 者 物 価 指 数 (昭和45年=100)							
	総 合	対 前 月 較 (年 比)	食 料	住 居	光 熱	被 服	雑 費	
昭和45年	100.0	7.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
46	105.9	6.9	107.0	106.4	104.3	109.2	106.2	
47	110.7	3.8	108.7	111.5	105.5	116.8	110.9	
47.9	111.8	1.1	109.7	113.1	105.7	119.7	111.4	
10	112.7	0.9	110.9	113.4	105.8	121.2	111.8	
11	111.7	△1.0	107.9	113.8	105.8	121.3	112.0	
12	112.0	0.3	107.8	114.3	106.0	121.3	113.0	
48.1	114.1	2.1	112.2	114.6	106.1	121.9	113.7	
2	115.5	1.4	114.8	115.0	106.1	123.7	114.4	
3	118.1	2.6	119.6	115.5	106.4	126.9	115.1	
4	120.9	2.4	121.9	116.0	107.0	129.0	119.9	
5	122.8	1.6	122.8	116.9	107.0	136.5	121.0	
6	123.5	0.6	120.7	119.3	106.6	143.0	122.1	
7	124.7	1.0	122.9	119.5	107.3	143.6	123.1	
8	125.7	0.8	124.8	120.4	107.3	143.6	123.1	
9	130.2	4.5	131.1	120.5	108.8	156.4	124.2	

資料：県統計課

全 国

年 月	消 費 者 物 価 指 数 (昭和45年=100)				農 産 物 物 価 指 数 (昭和45年 度=100)	卸 売 物 価 指 数 (昭和45年=100)	戦 前 基 準 指 数 (昭9~11年平均=100.0)	
	全 国 総 合	対 前 月 (年) 比 較	人 口 5 万 人 以 上 の 都 市	東 京 都 区 部			消 費 者 物 価 指 数 (東 京 都 区 部)	卸 売 物 価 指 数
昭和45年	100.0	7.1	100.0	100.0	100.0	100.0	577.9	399.9
46	106.1	6.1	106.2	106.3	101.7	99.2	614.3	396.7
47	110.9	4.8	111.0	111.4	102.2	100.0	643.8	399.9
47.8	111.6	0.9	111.8	112.0	105.0	99.8	647.2	399.1
9	112.2	0.6	112.5	113.2	106.9	100.5	654.2	401.9
10	113.0	0.8	113.2	113.4	107.2	101.2	655.3	404.7
11	112.5	△0.5	112.7	113.2	107.8	102.7	654.2	410.7
12	113.4	0.9	113.6	114.4	111.4	104.3	661.1	417.1
48.1	114.5	1.1	114.7	115.7	110.1	105.9	668.6	423.5
2	115.4	0.9	115.6	116.7	114.9	107.6	674.4	430.3
3	118.4	3.0	118.6	119.4	118.2	109.6	690.0	438.3
4	120.7	1.9	120.9	121.4	121.6	110.2	701.6	440.7
5	122.8	1.7	123.0	124.0	126.1	111.2	714.3	444.7
6	123.0	0.2	123.2	124.0	119.3	112.6	716.6	450.3
7	123.9	0.7	124.1	125.0	...	114.8	722.4	459.1
8	125.0	0.9	125.3	126.1	...	117.2	728.7	468.7

資料：総理府統計局 農林省統計調査部 日本銀行統計局

II 交通事故

茨城県 交通事故発生件数 (単位：人，件)

年 月	死 傷 者 数			第 一 当 事 者 別 発 生 件 数						
	総 数	死 者	負 傷 者	総 数	乗用車	貨物車	二輪車	特 殊 用 途 車	歩行者	その他
昭和45年	20,320	580	19,740	14,092	6,270	5,396	2,120	59	38	209
46	21,381	633	20,743	14,924	7,141	5,164	2,253	69	33	264
47	21,248	586	20,662	14,952	7,639	4,973	1,997	59	33	251
47. 8	2,160	47	2,113	1,491	745	507	206	10	—	23
9	1,692	49	1,643	1,178	593	380	176	8	2	19
10	1,865	47	1,818	1,303	691	417	168	3	1	23
11	1,792	67	1,725	1,299	639	477	151	6	3	23
12	1,915	59	1,856	1,363	705	496	144	1	1	16
48. 1	1,618	47	1,571	1,116	660	352	82	2	5	15
2	1,444	43	1,401	984	523	363	85	—	3	10
3	1,688	61	1,627	1,188	629	408	133	4	6	8
4	1,753	37	1,716	1,223	645	399	154	9	1	15
5	1,696	50	1,646	1,202	647	369	163	11	4	8
6	1,610	43	1,567	1,133	601	371	149	3	2	7
7	1,248	50	1,673	1,248	666	371	186	5	0	11
8	2,001	45	1,956	1,363	711	385	238	3	3	23

(注) 第一当事者とは事故の際過失の大きなものをさし、また過失が同程度の場合、けがの少ないものをさす。 資料：県警察本部交通企画課

12 火 災

火災の発生件数と損害状況

茨城県 (単位：件，棟，㎡，千円，世帯，人)

年 月	火 災 発 生 件 数	焼 損 棟 数	焼 損 面 積	損 害 額	り 災 世 帯 数			り 災 人 員		
					全 損	半 損	小 損	人 員	うち死者	うち傷者
昭和45年	718	1,098	61,326	2,866,753	336	45	256	2,481	37	130
46	806	1,151	60,428	1,581,120	340	61	300	2,718	35	140
47	778	1,039	55,645	2,001,837	279	48	299	2,404	39	133
47. 9	54	64	2,961	155,507	13	4	24	156	4	8
10	49	57	4,513	142,816	10	2	14	116	1	23
11	63	97	5,391	179,585	24	1	23	188	8	15
12	83	109	8,773	382,018	25	6	25	202	—	7
48. 1	67	94	3,467	67,263	22	1	24	202	2	9
2	234	156	8,390	263,504	46	6	37	298	5	21
3	410	198	10,397	380,375	70	7	41	485	8	19
4	162	103	5,630	177,229	31	6	38	274	3	13
5	81	67	4,217	195,781	19	3	18	167	4	7
6	66	68	4,051	85,383	16	1	17	156	1	9
7	78	76	2,615	104,453	19	5	27	208	1	4
8	119	92	9,767	439,691	20	3	24	201	2	4
9	79	71	3,242	47,381	18	2	18	161	1	8

資料：県消防防災課

統計課アラカルト

今回は、住宅統計調査、学校基本調査、茨城県常住人口調査など、人口、学事統計を担当している人口学事統計係に登場してもらいました。

この係は男4名、女3名の総勢7名で構成されています。目下、住宅統計調査の審査中で猛烈な追込みをかけています。

以下係員の面々を紹介します。

係の総括をしている木口係長。統計課14年の経験を持ち、昭和38年までは学事統計を専門に担当していましたが、39年に人口統計と学事統計が統合されたので、その後はこの両方を担当して現在に至っている本県統計の元祖的存在。45年国勢調査を担当し、目下、昭和50年の国勢調査に向けて意欲満々たるところ。那珂町から通勤しているが、家庭はいまのところ娘さん息子さんがそれぞれ、大学、社会へと巣を離れているので、かつての新婚時代よろしく愛妻と二人暮らし。

菊と盆栽を愛する44歳の温厚な紳士佐藤正敏主幹。国勢調査、住宅統計調査を担当し、係の相談役的存在。統計課は木口係長に次いで12年の経歴を持つ課内でも数少ない統計マン。筆者のような駆け出しにとつては後光がさしているように見える。若かりしころは保健予防課に勤務していただけあって、奥さんのほかに中学2年生の息子さん、それにお嬢さんの4人の家族構成。菊づくりは5年以上のキャリアというから今頃は庭のいたるところ



ろに豪華けんらんたる菊が咲きぞろい、拝見する価値は充分というところ。

学校保健統計調査を担当する屋代淑枝主事。市内渡

里町より通っている学研者タイプの人。茶道は免許皆伝、文学は自から筆をとり、音楽はカラヤンと趣味と教養の深さは統計課でも指折りの存在。また旅をすることも好きで、国内の名所旧蹟は行ってないところがめづらしいぐらいで、自然の美を尋ねる優しい心を持っている。

学校基本調査を担当しているのが常陸太田市出身の永井和世主事。当課在籍4年目だが総理府統計研修所の専科研修を履修しており、市町村や県で実施する基礎研修や専門研修で講師を勤めているので読者のなかには、あのウイットに富んだ話し方を聞いた方もたくさんおられるものと思われる。彼氏云わく「趣味は何か一つだけやるから趣味というので、なんでもやる人には趣味という字はない。」とか。特に強調したいのは、麻雀、カードなどなど、ギャンブルならすべてこれプロ級、モナコあたりのカジノをさすらい歩いた方が似合っているのかも!!

県の常住人口調査を担当している嶋根悦子主事、10月の人口はと聞けば、2,250,372人なんて数字がボンと出てくる。現在は水戸に住んでいるが出身は久慈郡金砂郷村。総務部広報課から今年6月転勤になって早や6カ月、目下書道に熱中している。教える先生もその上達のはやさには驚くばかりとか。残念ながら流派は聞きもらした。

住民基本台帳人口移動報告に関する業務を一手に引き受けている人口学事統計係若手のホープ、秋山桂一主事補。石岡に生まれ石岡に育ち石岡から通っている。出生数を毎月綿密に調査していると4月から6月は生まれるものが一番多いそうである。中央大学の通信教育講座を

受講しており、昔流にいえば「たぐいまれなる好青年」といったところ。

最後に御登場願うのはこの係の山ほどあるこまかい仕事を引受けている川上久美子さん、趣味は友達と洋菓子をつくることで、みんなで作っているときに最高の気分という。最近も3人でデコレーションケーキを作ったば

かりとか。出来あがればそのまま食べてしまうのがもったいないほどの出来栄え。世の甘党の男性諸君はこんなお嫁さんを持ちたいと日頃思っていることだろう。是非にと思う方がありましたら当課の木口係長まで、世話の労はいとわないとのこと。これを特につけ加えて本号統計課アラカルトはおしまい。

統計ニュース

— 12 月 の 行 事 —

- 3日～ 7日 漁業第5次センサス調査票審査会
- 11日～14日 農業基本調査説明会
- 12日～17日 小規模事業所給与等実態調査
調査員打合会（水戸・土浦・下館）
- 28日 御用納め